

## 大学入学試験合格後の過ごし方を考える

——大学，短大，専門学校等高等教育機関に合格を果たした人のために——

開倫塾

塾長 林 明夫

### 1. はじめに

- ①大学，短大，専門学校等の入学試験に合格し，進学する高等教育機関が決まった後どのように過ごしたらよいかを今回は考えます。
- ②時の流れのままに身をまかせてしまうと，よかった，よかったと楽しく過ごせます。しかし，大学等の高等教育機関に進学したときに新しい環境に慣れることが精一杯で，勉強どころではないことも多いようです。一気に落ちこぼれてしまう人も少なくありません。
- ③私は合格が決まったら，しばらくは体を休めることも大切とは思いますが，できるだけ早めに高等教育機関の予習をすることをおすすめします。ではどのように予習したらよいか。

### 2. 合格が決まったら，大学等の高等教育機関の予習に励もう

- ①大学等進学が決まった人にとって最も大切なことは，第2外国語の予習をすること。大半の大学では，英語の他に，第2外国語の履修が必須となっています。スペイン語，ドイツ語，フランス語，イタリア語，ロシア語，中国語，ハングル語などの第2外国語を履修し1～2年時で単位を取得しないと3年時に進級できなかったり，卒業できない大学が数多く存在しています。大半の第2外国語の先生は，小学校や中学校で初めて英語を習ったときのように懇切丁寧に教えてくださる方ばかりではありません。大学入試に耐えるだけの英語学習能力があることを前提に，かなりのスピードでバリバリ教えこむタイプの先生が多い。でも2年目が終わる頃には簡単な小説や論説が読める，簡単なディスカッションができるレベルにまで語学力を身につけさせたいと意気込んでいる先生も多いようです。そこで，入門のところを「アッ」という間に終わってしまい，「ボー」としてしていると「アッ」という間に「落ちこぼれ」てしまいます。

そこで，私がおすすめしたいのは大学入試が終了し，しばらく休んで入試の疲れがとれたら，一気に第2外国語の入門書を終わってしまうことです。できれば，2～3回同じ本を勉強してその本に書いてある文章はすべて口をついて出，完全に書ける状態になってから4月を迎えることをおすすめします。4月に入り，教科書が販売されたら，第2外国語だけはゴールデンウィークが終わるまでに一冊分の予習を終え，余裕を持って5月からの授業に臨むことをおすすめします。

さらに言えば夏休みには、2年目で使う教科書をすべて予習してしまうことを実行すれば、大学生活の1～2年目には第2外国語で苦しむことがまったくなくなります。余裕がでます。

②進学する大学等の学部に関連する内容についても、最低一冊は入門的テキストを一冊2～3回読み終えてから4月を迎えることをおすすめします。たとえば、経済学部に進む人は「経済学入門」、経営学部に進む人なら「経営学入門」といった本を使うとよいでしょう。できるだけ大きな本屋さんに行き、いくつかある本の中から選択して買い求めてください。できれば一度ザッと読んだ後2回目は「サブノート」をとりながら読み進めることをおすすめします。「～は…だ」という「定義」も、よく「理解」できたものだけでいいですから、正確に覚えたりさらには正確に書けるまでにしておくことをおすすめします。3月末までにこの作業を終えて、4月に入ったら一日も早く専門科目で一年時に履修科目の教科書を入手して、これまた、ゴールデンウィークが終わるまでに1回目を読了することをおすすめします。よくわからないところをはっきりさせ、専門科目用の辞典を活用して調べたり少し厚めの他の教科書を辞書がわりにして理解を進めること。それでもわからないところは、チェックしておき授業に臨むことが大学等では大切です。大学等の先生の授業をお聞きし、それでもわからないところはさらに自分で調査し、友人と議論し、それでもわからなかったら、先生に質問させていただくこと。

### 3. おわりに

①合格が決まり、4月に大学等高等教育機関の学生になる方は、新聞を一日一時間一面からじっくり読む習慣を身につけること。日本語の新聞を毎日一時間読み、内容がわかっていることについてのみ英字新聞を辞書をまったく使わず一日一時間読みこむ習慣を4月までに身につけること。この2つをおすすめします。

②高校卒業生のレベルを世界水準で考えると、母国語の新聞と英字新聞をじっくり読みこむ能力を身につけた人が、高校卒業生といえます。この2つの能力を身につけた上で、大学等に進学し同じことを2～4年間継続すると、不自由なく読めディスカッションと簡単な論文が2カ国語で書けるようになります。これが大学等高等教育機関の卒業生の世界水準です。

③「知的な生活」を通して「知性」を身につけることが世界標準での大学等高等教育機関の学生の生活のすべてとなります。その最後の準備期間が今だと思います。どうかあせることはありませんが、あるレベルに達せられるよう頑張ってください。

以上

— 2003年1月30日記 —